ID_{受付番号}_YYYYMMDDhhmmssfff_{9}.csv

ファイル名先頭を「identifier」を表す「ID」（固定）とし、後ろにスネイクケースを使用し、受付番号を含めること。受付番号以降は、連携ファイルの命名規則同様に、ファイル出力したタイムスタンプと連番とすること。

⑤　「データ要件・連携要件の標準を定める命令」の独自施策システム等連携仕様によって、基本データリストを用いた連携における連携ファイルの命名規則は以下のとおり。

{システム区分＋グループ ID[4]}_kihon_YYYYMMDDhhmmssfff_{9}.csv

「システム区分＋グループ ID」の後ろにスネイクケースを使用し、基本データリストを表す「kihon」（固定）を含め、YYYYMMDDhhmmssfff と{9}については、タイムスタンプと連番[5]とすること。

2.3.2.連携ファイル

①　連携ファイルは CSV 形式とする。なお、CSV 形式の仕様は RFC4180 等の規定を踏まえ、以下に従うこと。

半角スペースはフィールドの一部分として含むこと。なお、1 行のレコードの最後は、カンマで終了しないこと。

データレコード単位に改行コード（CRLF）を付与すること。なお、ファイルの最後のレコードの末尾には、改行コード（CRLF）を付与してもしなくてもよい。

※提供側業務システムが UNIX／Linux 系の場合は、LF を CRLF に変換すること。

ファイル内の各項目をダブルクォーテーションで囲むこと。なお、改行コード（CRLF）、ダブルクォーテーション、カンマを含むフィールドは、ダブ

---

[4] 「地方公共団体の基幹業務システムの統一・標準化における各種 ID の管理方針」に記載のグループ ID を指す。

[5] 原則、連番とするが、繰り返しが生じるグループ（健康管理業務におけるグループ ID：019036 等）においては「連番＋任意の 2 桁以上の数値（固定値も可）」を許容する。